

鳥獣の被害対策

イノシシの増減傾向を探る！

～出猟記録と捕獲個体の年齢の分析～

研究の背景・目的

鳥根県では農林作物被害の軽減を図るため、H14年度からイノシシの「特定鳥獣保護管理計画」を施行し、これまで生息数の低減(捕獲目標15,000頭/年)と各種の被害対策に取り組んできました。

近年の被害発生は減少傾向にあるものの、依然としてイノシシは鳥獣被害の過半を占めています。そのため、「特定鳥獣保護管理計画」の施行による生息数や農林作物被害の低減への効果についてのモニタリング調査を実施します。

研究方法

- ① 狩猟者の狩猟期間中の捕獲活動である「出猟記録」を分析して、県下のイノシシ生息数の増減傾向を推測します。
- ② 飯南町で捕獲されたイノシシの年齢、性別、捕獲方法等を調査して、捕獲実態や捕獲による影響を分析します。
- ③ 飯南町で新たに設置された広域防護柵の設置・管理状況を調査して、被害防除への効果を検証します。
- ④ 飼育イノシシを使って、与えた餌に対する探索行動の調査等を実施します。

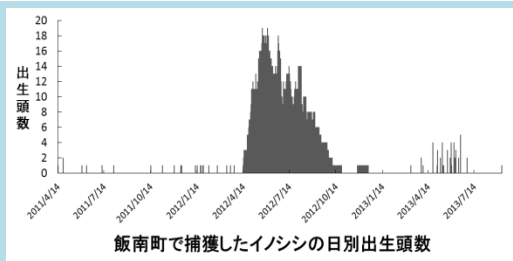
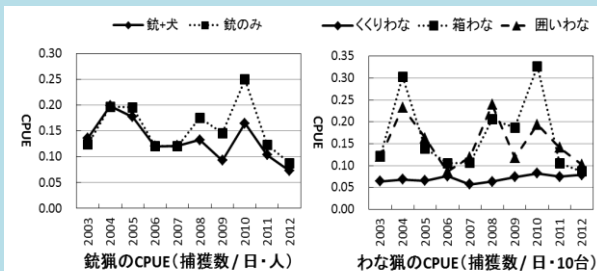
研究状況

① H24年度の捕獲効率(CPUE:生息数の指標)は、前年に比べて低下しました(図)。年間の捕獲数11,150頭のうち、個体数調整捕獲数(イノシシの適正な個体数を保つための捕獲)が7,200頭と多かったために、狩猟期中のイノシシ生息数が減少して、捕獲し難くなったとも考えられました。

② 飯南町では、4月下旬～9月上旬に出産頻度が高いことがわかりました(図)。また、箱わなでは警戒心の少ない幼・亜成獣(0～1歳)が、くくりわなでは体重の重い成獣(2歳以上)の捕獲割合が高いことがわかりました。

③ 広域防護柵は、被害の発生しやすい場所に重点的に分断して設置されていました。これらの点検頻度は少なく、倒木による破損や用水路からの侵入跡を確認(写真)し、管理体制等に問題があることがわかりました。

④ 飼育イノシシに地中に埋めたミミズを探索させました。臭いで探知はせず順次掘り起こして、ミミズの埋まっている場所に行き着くとすべてを食べました。また、繰り返して試験をすることによって、前回までにミミズの埋まっていた場所を初めに掘り起こしてから他の場所を探索する効率的な行動を認めました(写真)。



用水路からのイノシシの侵入跡



発見したミミズを食べるイノシシ

研究成果の活用・今後の研究計画

各種のモニタリング調査の結果は、鳥根県有害鳥獣被害推進協議会や行政機関へ提供して、「特定鳥獣保護管理計画」による施策の効果を検証するとともに、次期の「特定鳥獣保護管理計画」の策定などに役立てます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
鳥根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 鳥根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 菅野 泰弘 (すがの やすひろ)

問い合わせ先 : 0854-76-3819

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : イノシシの保護管理と被害対策のモニタリング調査 (研究期間 : H24～28)

